

[プロジェクト研究報告書]

SDGs 未来プロジェクト

1年前期のアイコン・プロジェクトを中心として

庄 司 真 理 子

SDGs Future Project

— Focusing on the Icon Project for Freshmen in Spring Semester —

SHOJI Mariko

This is the progress report of our SDGs project funded by the President's discretionary budget for 2021. In this report, the application outline, activity plan, and the analysis of the project, especially the Icon Project for freshmen, are described. In this project, students were asked to consider the SDGs, the university's goals, and their own goals in an organic linkage. They confirmed the connection between their own goals and the global goals of the SDGs.

はじめに

2021年度学長裁量経費によるプロジェクトの前期における進捗状況をここに記したい。ここでは、申請概要、活動計画に加えて、具体的活動内容の中でも1年生を対象としたアイコン・プロジェクトの前期の活動

内容に焦点をあてて分析結果を記す。なお、下記の申請概要ではESG投資ワークショップなどにも言及しているが、これについては別稿で結果をご報告したい。

1. 申請概要

我々の学園では、2020年度から持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs、以下、「SDGs」）を基本方針に加えた。しかし、高いところに優れた学園の方針・大学の方針が存在しても、それを現場の教員がどうSDGsと結び付けて具体的な教育に落とし込んでいくかについては、方向やしくみがまだ定まっていない。SDGs教育を学園で定着させていく際には、まずは教育学部を有し教育開発研究力を有した大学で、安定してSDGs教育を実践するベースを作っておく必要がある。

そこで、本研究の目的を、大学生にとって実践可能で効果的なSDGs教育のプロトタイプを作ることに置いた。それを、3学部から教員が一人ずつ担当し、それぞれの学部の特性やシナジー効果を勘案し磨き上げるべき学生の資質・能力を見定めた上で、現実実践可能な教育方法を工夫し、共同研究を通じて試行錯誤を行うこととした。

大学レベルでのプロトタイプを作った先には、それを学園全体に移植する地平が拓ける。大学生に有効なSDGs教育が、千葉敬愛短期大学でも同様に有効であるか、また、系列高校の生徒が参加する時には、それをアレンジを加えることによって高校生に適合したプログラムに変える方向性、やり方を工夫して高大連携を利用し大学生・短大生と高校生が共同でグループワークを行う方向性、学園を超えて市民と協働する方向性、これらを試すサンドボックス的な実証実験の効果が望まれる。

教育方法を開発するベースの作業を行う各学部の教員としては、それぞれの研究立場からSDGsに別の視野から関心を持ってきた国際学部：庄司真理子（座長）、教育学部：市川洋子、経済学部：飯野由美子が担当することとした。その他に、SDGsとSociety 5.0との関係に詳しい国際学

部：三幣真理、学園全体での検討・試行に関わる際参画を乞うキーパーソンとして、まずは敬愛大学ビジョン2030に深く関わるIR・広報室：工藤龍雄室長のアドバイスと支援を受ける。

本SDGs未来プロジェクトの具体的内容は、①ESG投資ワークショップ、②学園全体を対象としたイベント、③活動記録の発表、の3つから成る（この実行内容を主体別・年度別整理した00ページ【表1】参照）。

それぞれについて、別紙「SDGs未来プロジェクト具体計画」に具体性を以て詳細に記したので、参照されたい。ここには概要だけ記す。

①ESG投資ワークショップは、東京証券取引所・日本証券業協会がCSRの枠組みで学校向けに提供している「株式学習ゲーム」をプラットフォームにしたSDGs銘柄への投資選択のグループワークである。市川ゼミで開発したPBLのツールを用いる。

疑似的に与えられた1千万円を、グループごとに、東証一部上場、二部上場、マザーズ、ETFを対象として、SDGsを積極的に採り入れ株価上昇に繋げている銘柄を選択し、ポートフォリオを組むワークを行う。広く3学部のある志学生で開始、軌道に乗り始めたら系列高校の生徒有志に、さらに社会人にも加わってもらうことを企図したダイバーシティに富んだワークショップである。

2. 国際学部の具体的計画

- * SDGsと敬愛大学が教えるビジョンの有機的連関性を明らかにし、大学のビジョンが身近に感じられるように学生たちのアイデアを募集し、シンプルな言葉、アイコンなどを検討し、大学に提案する。
- * 下記経済学部のESG投資に国際学部の学生も参加し、本学の建学の精神である敬天愛人の理念を反映させたビジネスの在り方を検討する。ゼミでは昨年度からESG投資について着手している。
- * SDGsおよびESG投資の学習をレポートにまとめる折にマイ・ルーブリック（学生が自己の学習の進展度を常に自己評価する仕組み）を利用し、

自己の立てた目標に立ち向かう力を育成する。

＊具体的な教育としては、敬愛プログラム、そして共同研究の教員の各演習科目等に反映させる。

＊FDとの連携：可能であればFDと連携してSDGsの専門家のお話をうかがい、敬愛の理念とともに学ばせていただく機会を何回か設けたい。

3. アイコン・プロジェクトの概要

アイコン・プロジェクトでは、本学には学園および大学の指針となる多様な目標が掲げられている。これらの目標の中で国際学部が、どのような目標を自らのものとして感じ、さらに国連の掲げるSDGsとの有機的関連性を取得しようとしているかを検討することを目的とする。また学生が選んだ目標についてアイコンで示すことによって、ビジュアル化することも目的としている。

3-1 学生たちに示した目標

具体的に学生たちに示した目標のうち、国連が示すSDGsの17の目標は、わざわざ示すまでもない有名なものであるのでここでは割愛する。他方で敬愛学園および敬愛大学が示しているビジョンは、明確に意識して学生たちが確認することは少ない。そのため、あえてここに列挙したい⁽¹⁾。

- 1) 2020年頭に三幣利夫理事長が示した敬愛学園のビジョン
- 2) 敬愛大学ビジョン2030
- 3) 敬愛大学のディプロマ・ポリシー
- 4) 国際学部のディプロマ・ポリシー

上記4点をここに記す。

- 1) 2020年頭に三幣利夫理事長が示した敬愛学園のビジョン⁽²⁾

学園100周年とSDGsの機を活かし、キャンパス整備を進め「文教のまち」へ、これに加えて、学園のこれからの10年を考える際、重要と考え

るキーワードを3つ申し上げます。第1は、学園100周年です。「敬天愛人」を建学の精神として1926年に創設された本学園は、千葉県内では最も古い私学の1つであり、地域を支える伝統校としての誇りを持ち、人材育成に努める責任があります。新たな100年が始まるに相応しいビジョンと、新たな時代に求められる教育が必要です。第2は、稲毛キャンパスの整備事業です。千葉市では稲毛地域唯一の私学「敬愛」が「文教のまち」の核として発展・振興することを期待しています。従い、キャンパス整備を行いつつ、大学・短大、学園高校が協力し、「文教のまち」づくりのための「知の拠点」として、継続・発展し続けたいと考えます。第3は、国連の「SDGs」です。これは、2015年に国連で採択された、持続可能で多様性と包摂性のある社会を、2030年までに実現するための国際目標で、学園としても新たな中期経営計画の中で取り組んで行きたいと考えています。

2) 敬愛大学ビジョン2030⁽³⁾

1. 学生の主体性を尊重する大学 ―学生一人ひとりを輝かせる― 学修、学生生活、就職、地域貢献・ボランティア活動等を学生が自ら考え選択し自主的に行動することを、全面的にサポートする大学となる。
2. 「敬天愛人」教育の推進 ―謙虚な学びと、責任ある実践― 建学の精神である「敬天愛人」を教育の支柱とし、高く幅広い視点から謙虚に学び自ら考え（敬天）、社会や地域、人との関係を責任をもって、より良くしていこうとする実践力を育てる（愛人）。
3. IT革命後の新たな時代の変化に対応する教育 ―SDGsを通じてSociety 5.0の実現に貢献― IT革命後のSociety 5.0の到来をチャンスととらえ、SDGsの達成に向けて「人間の強み」を発揮する想像力（Imagination）と創造力（Creativity）の双方を豊かに備えたAI（人工知能）を活用できる人材を養成する。
4. グローバルな社会における多様な人々との協働 ―ボーダーを超える― 国や人種、大学や地域、学部学科や専門性のボーダーを超えた様々な人々との協働、産学官の連携を推進し、地域社会の中核とな

れる人材を養成する。

5. リカレント教育の展開 ―生涯にわたり学び続ける生き方へ― リカレント教育を充実させ、時代の変化に合わせていつでも何度でも学びなおすことができ、長く健康で豊かな人生を送ることのできる社会の実現に貢献する。

3) 敬愛大学のディプロマ・ポリシー⁽⁴⁾

これからの時代を生き抜くための力

人、物、情報が世界的規模で移動し、これまでにない革新的技術やビジネス・モデルが次々に生まれ、我々の生活を変えています。急激な変化を遂げていく社会において、AIやロボットにはできない人間ならではの仕事や生き方が求められています。敬愛大学の教育では、このような時代を生き抜くために必要な3つの柱を掲げています。

1. 知識と教養

健全な倫理観と豊かな人間性を形成するための知識と教養をもった人材

2. 専門性に基づく思考力・判断力

社会における諸課題を発見・探求・解決し、社会の発展に貢献できる人材

3. 多様性の理解と協働性の実践

多様な人々とコミュニケーションし、協働できる人材

「敬天愛人」の理念の体得と4年間の学びを通じて、様々な変化の待ち受ける社会で、生きがいを持って力強く生きて行くための基盤を形成します。

4) 国際学部ディプロマ・ポリシー⁽⁵⁾

急速にグローバル化が進む世界の中で、建学の精神である「敬天愛人」の理念の下、多様な文化を理解し、国際的な視点から日本および地域社会で協働し、その発展に貢献できる人材を育てる。コミュニケーション能力を高め、日本や諸外国・地域の歴史や文化、現代社会における諸問題について、国内外での能動的学修（アクティブ・ラーニング）を重視する

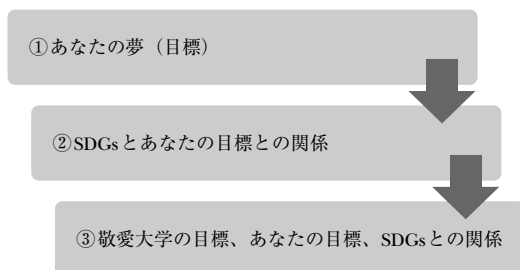
学びを通して、論理的な思考力と課題の発見・探求・解決に向けた実践力を身に付けることを目的とする。この教育目的を達成するために、以下の4項目の到達目標を定め、これらの目標到達のために配置された所定の科目を履修・修得した者に対して、学士（国際学）を授与する。

1. コミュニケーション能力、および高度な英語の運用能力
2. 多文化理解を基礎とする国際的な教養
3. 卒業後の進路目標に応じた専門知識の体系的修得
4. 社会で協働し、その発展に貢献できる力

3-2 アイコン・プロジェクトの手順

これらの多岐にわたる目標の中から、自らが何を考えているかを明確化するには、一度に課題を出してしまうと混乱が起きる。そこで下記の三段階に分けて、学生たちに考えてもらうこととした。第一に、学生自身の目標（夢）を5つ書き出してもらった。

図1 アイコン・プロジェクトの手順



次に、学生の社会性を育てるように、地球全体の目標であるSDGsを学び、考える機会を持った。自分の夢が自己の内側に引きこもる形ではなく、社会に開かれた社会性を持ったものとなるように配慮した。SDGsの学習が終わったところで、SDGsと自分の目標との関係について考える課題を提出してもらった。この第二段階ののち、最後に、下記のような課題を出した。

課題 「あなたが考えたい敬愛大学の目標（ビジョン）を1つ選び、これ

と SDGs（地球全体の目標）とあなた自身の目標を関連付けて、論じなさい。また、選んだ敬愛大学の目標（ビジョン）についてアイコンを考えてください。」

4. むすびにかえて——アイコン・プロジェクトの結果

10名ほどの学生たちが、どのような結果をだしてきたか、以下に示す。

表 1 学生が関心を持つ SDGs の目標

SDGs の目標		人数
1	貧困をなくそう	2
4	質の高い教育をみんなに	1
5	ジェンダー平等を実現しよう	1
9	働きがいも経済成長も	1
10	人や国の不平等をなくそう	3
13	気候変動に具体的な対策を	1
17	パートナーシップで目標を達成しよう	3

まず、SDGs の目標の中でどれを選ぶ傾向にあるかを見てみよう。

表1の結果からわかるように多くの学生が目標10と目標17を選択している。学生たちの傾向として、目標10の人や国の不平等感が高く、その差別をなくすことに関心を持つ者が多い。レポートを読んでもみると、自分自身が差別されているという感覚よりは、黒人差別などのBLMの問題、途上国の社会問題、子どもの貧困など、周囲に対するおもしろいやりが感じられる。また目標17の「パートナーシップで目標を達成しよう」に興味を持った学生が多い。周囲の人たち、さらには国際社会まで視野を広げ、多くの人、会社、団体と協働していく姿勢は国際学部らしい特性とも言えよう。学生たちのレポートからは、自分自身の利己的な利益に閉じこもらず、広く社会に目を向けて、その発展を志向する前向きな姿勢が見られた。

次に敬愛学園、大学、国際学部のビジョンのどこに学生たちは目を付

けていただろうか。学生たちの答えは、一点に集中した。敬愛大学ビジョン2030の「4. グローバルな社会における多様な人々との協働 ―ボーダーを超える― 国や人種、大学や地域、学部学科や専門性のボーダーを超えた様々な人々との協働、産学官の連携を推進し、地域社会の中核となれる人材を養成する。」を答える学生が10名中9名であった。特に「ボーダーを超える」という言葉に魅力を感じる学生が9名中4名であった。敬愛大学ビジョン2030の目標は、敬愛大学全体のディプロマ・ポリシー「3. 多様性の理解と協働性の実践：多様な人々とコミュニケーションし、協働できる人材」にもつながる内容であり、さらに国際学部のディプロマ・ポリシーの「2. 多文化理解を基礎とする国際的な教養」にも共通する部分がある。パートナーシップを重んじる敬愛の学生の気質が表れていると言えよう。ちなみに、10名中9名が同じ答えであったのに対し、1名は教員になることを目指していることから、敬愛大学ビジョン2030の「1. 学生の主体性を尊重する大学 ―学生一人ひとりを輝かせる― 学修、学生生活、就職、地域貢献・ボランティア活動等を学生が自ら考え選択し自主的に行動することを、全面的にサポートする大学となる。」を選択した。上記の敬愛の目標群は、すべて印刷したものを学生に配布したため、読みやすかったはずであるが、敬愛大学ビジョン2030の中から自分の目標を選ぶ学生が多かった。特に授業中にこれを強調したわけではない。なお、昨年度はSDGsについて、自分が関心を持つ目標を3つ選んでもらった。これはクラスによって偏りがあることが昨年度の結果からもわかっている。昨年度は、1年生は「差別」をテーマとした学生が多かったが、2年生は「コロナ」と「環境」に関わるテーマが多かった⁽⁶⁾。1年生は差別や平等に関心を持つ傾向があるのかもしれないが、2年間の研究だけでは、一般化することは難しいだろう。

しかし、この結果から敬愛大学国際学部の学生たちが、本学の何に魅力を感じているかが垣間見られた。「多様性と協働」そして「ボーダーを超える」、これが本学の学生たちの志向であることが理解できた。ことにコロナ禍の折、巣籠で閉じ込められた気持ちを、外に向けて発散し、ボ

ーダーを超えたいという学生たちの思いが拝察される。

(注)

- (1) 以下に列挙するもの以外に敬愛大学教育憲章等、様々な優れた指針があるが、今回は、学園全体、大学、学部の3つのカテゴリーから学生に示した。
- (2) 三幣利夫「三幣理事長より『年頭のご挨拶』一部抜粋、2020年1月8日、IR・広報室、敬愛大学。
- (3) 将来計画委員会大学作業部会「敬愛大学ビジョン2030」敬愛大学、2020年1月21日。
- (4) 敬愛大学ホームページ <https://www.u-keiai.ac.jp/about/iol/> (2021年8月5日アクセス)。
- (5) 敬愛大学ホームページ https://www.u-keiai.ac.jp/international/educational_p/diploma/ (2021年8月5日アクセス)。
- (6) 庄司真理子「1年次後期基礎演習および2年次専門研究におけるSDGsの取り組み」『敬愛大学総合地域研究』第11号、113-123ページ(2021-03)を参照のこと。